

## 第199回 番組審議会

1. 日 時 平成23年2月8日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 13名  
出席委員数 11名 (欠席委員数 2名)

### ○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)

三浦 宏 (副委員長)

—以下50音順—

久慈 浩介

斎藤 純

斎藤 雅博

東海林 千秋

菅原 正二

中原 祥皓

藤原 保雄

八木橋 伸之

吉田 浩次

### ○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)

小原 忍 (専務取締役)

藤澤 利憲 (常務取締役)

前田 秀男 (取締役編成技術局長)

藤原 銀司 (取締役営業局長)

君沢 温 (報道局報道部 部長)

松館 守 (めんこいエンタープライズ 制作部 部長)

### ○ 事務局 村田 重昭

#### 4. 議 題      めんこいテレビ開局20周年記念

FLY～はばたけ 岩手の若者たちよ～

平成23年1月2日(土) 9:55～10:50 放送

#### 5. 議 事 概 要

今回は1月2日に放送した「めんこいテレビ開局20周年記念 FLY～はばたけ 岩手の若者たちよ～」について審議しました。出席した委員からは「お正月番組に相応しい爽やかな番組だった」、「岩手にもたくさんの素晴らしいアスリートがいることを知って驚いた」、「坂本君の”人間力”という言葉に感激した」など番組を評価する意見がありました。

また一方で「何を基準にしてこの選手を取り上げたのか良く分からなかった」、「選手ひとりひとりをもう少し掘り下げて取材した方が良かった」、「スーパーの文字が小さくて見づらかった」などの意見がありました。

#### 6. 議 事

##### ○事務局

それでは、ただいまより第199回番組審議会を開催致します。

本日ご欠席の委員は、村上委員・役重委員のお2人です。

今回の議題は、お正月の2日に放送されました「めんこいテレビ開局20周年記念 FLY～はばたけ 岩手の若者たちよ～」です。本日は報道部長の君沢とめんこいエンタープライズ制作部長の松舘が出席しております。

それでは、中村委員長よろしくお願いいいたします。

##### ○中村委員長

それでは議事に入ります。君沢さんと松舘さんから、今回の番組の制作意図や説明や感想をお願いします。

##### ○君沢部長

本日ご審議いただきます「FLY～はばたけ 岩手の若者たちよ～」という番組は、今年の1年間、ニュースで取材した映像をまとめ、若干の追加撮影をして構成した番組です。

めんこいテレビ報道部の年間を通したテーマのひとつに、県内の「夢、勇気、感動」を伝

えるということがあります。夕方のスーパーニュースでは、まさしくこのテーマと同じタイトルの「夢、勇気、感動」という企画コーナーがあります。様々なテーマを取り上げて、多くの人の心に勇気や感動を与えてくれるスポーツに力を入れています。近年は盛岡商業高校のサッカー部の全国制覇から始まり、去年の菊池雄星投手を始めとする花巻東高校の甲子園での活躍。今年は見前中学校の土橋智花さんや上田中学校の坂本景君などによる陸上の全国制覇など、今までなかったレベルで全国的に活躍する若者たちが次々と岩手から登場しています。

経済や政治状況のせいで、どちらかといいますと閉塞感が漂うような状況ではありますが、明るい話題として、スポーツに打ち込み活躍する若者たちの姿を岩手県民に伝える事で、みんなが元気になっていけたらいいなという、そういう思いを込めて取材と制作をしています。

岩手県では4年前から岩手スーパーキッズという試みで、国際的に通用するアスリートを県内から輩出しようと力を入れています。また2016年開催の岩手国体に向けて、スポーツ選手の養成に力を入れています。そのような動きの中で今後も期待できる若者たちが次々と生まれてくる事を念じつつ、制作をめんこいエンタープライズに任せました。

番組では、ただ活躍だけを伝えるのではなく、努力の過程とか、挫折や苦悩とか、人間性における寛容が大事だという点とか、番組で紹介したボクシングの佐々木選手のように、敗れてもそれがバネになるという点などを同時に伝えること。そういうところが重要ではなかったかと個人的には思っています。

#### ○松舘部長

本来であればこの番組を制作したディレクターの寺澤が出席の予定でしたが、インフルエンザのため、急遽、私が出席いたしました。番組について十分ではありませんが、寺澤から電話で内容を聞きましたので、それに沿ってお話いたします。

寺澤は昨年も「FLY」の制作を担当しましたが、その2009年は花巻東高校の大活躍がありまして、そうした事を背景に番組を作ることが出来ました。今年も「FLY」をやるよと聞いた時、寺澤は、陸上の土橋さんの活躍は耳に入っていたものの、はたして55分構成できるだけのネタがあるのか?と思ったとのこと。我々は制作部において報道部の取材を全部分かっているわけではありません。その後、報道部の取材のVTRを検索して調べて行くうちに、今回紹介したものがどんどん出てきて、改めて岩手のスポーツの奥深さ、幅の広さを感じました。

制作上、寺澤が気をつけた点は、2年連続で作ることになったので、前回と同じような演出方法で今回も制作したという事があります。さらに、ぜひ若い人に見て欲しいということで、選曲に関しても若い人の耳に入りやすいような楽曲を使用するよう心がけました。

本日の皆さまのお話は寺澤に伝え、今後の制作部の番組制作に生かしていきたいと思えます。

#### ○中村委員長

それでは委員の皆様からご意見、ご感想を伺っていききたいと思います。

藤原委員からお願いします。

#### ○藤原委員

岩手の若者たちが最近話題の「八百長」とは無縁の世界で、こんなに活躍しているのだという事を改めて知りました。番組作りにおいても、制作が長期間に渡ったり手間取ったりしたかと思いますが、「夢、勇気、感動」を改めて感じました。

スポーツだけではなくて、最近の岩手の子ども達、若者たちが頑張っています。岩手女子高校の演劇部が東北チャンピオンになったり、囲碁や将棋の世界でも大活躍しています。そういった所の一部分ではあるのでしょうけれども、こういうような形で取り上げていただいて、若者を中心とした多くの県民に「俺もやってみよう」という勇気を与えた番組ではなかったかと思います。今、本当に経済も財政もいろんな意味で閉塞している中で、勇気を与え、いい所に光りを与えるようなタイプの番組を、県民の皆さんに提供するという事を、長年やっているめんこいテレビに敬意を表したいと思えます。

一方で最近感じることは「だから自分たちでやるしかないんだ」というような動きがあちこちで起きているということです。私は4年ぶりにこちらに帰ってきましたが、行政、大学を含めて、住民と一体になって地域づくりをしようという動きを知って、ここまで盛り上がってきているのだなあ、ということを感じています。

先月「ミュージカル平泉」の盛岡公演を観てきました。ミュージカルでは若者ではない人もいましたが、熱意がすごく伝わってきました。こういう動きがあちこちで盛り上がっているという事を改めて感じました。お金だけではない動きをソフトパワーと言うそうですが、そういうソフトパワーをこれからも多く取り上げて、どうぞ県民のためにこういうタイプの番組を作っていただければ有難いという思いで番組を見ました。

○中村委員長

齋藤純委員をお願いします。

○齋藤純委員

スーパーニュースの取材の蓄積があったからこそ、こういう番組ができたのだと思います。スーパーニュースの中の一コーナーとして3分位の時間で見るのであればいいのですが、この長尺ものでバラバラっと見せられると、ちょっと僕は退屈しました。それは私の感想であって一般論とは別だと思います。

岩手町のホッケーを取り上げていただいて有難うございました。町民に代わってお礼申し上げます。なぜ、岩手町は日本一のホッケーの町になったのかを取り上げると、いろいろな歴史があって面白いと思います。

一方で富士大学 野球部の中村選手ですが、狭い見で言うと、あの方は岩手県の人ではありません。野球留学、野球入学で富士大学の名前を売るために入った人なので、あんなに大きく取り上げることはないだろうというのが私の感想です。なぜ、そう思ったかといいますと、岩手県のネイティブである、矢巾町出身の水本さんが全然出てこなかったからです。去年はアジア大会のカヌースプリント男子カヤックペア200メートルで金メダルをもらっています。次のロンドンオリンピックの候補にもなっていて、オリンピックでメダルが取れる最有力選手と言われています。そのような人が全然取り上げられないというのは、不思議だなあと思いました。

○中村委員長

菅原委員をお願いします。

○菅原委員

僕は普段、1日中テレビを見ているわけにはいかないのですがビックリしました。今、齋藤委員の言ったのと逆で、固め打ちされて全部見せてもらい、こんなすげえ連中いたのかと思って、知らないのは俺だけだったのかとショックを受けました。普段、見てないから一気に紹介してもらって僕にとっては良かったです。それにしても、たまげました。すごい若いもんがいっぱいいるということ、非常に頼もしく思いました。僕は、あまり地元・地元とか岩

手・岩手とか言うタイプではありませんが、どこか嬉しいです。

皆しっかりしています。「今の若い者は」と一般には言いますが、実際はすごいことをやっています。ぶっち切りでトップでしょう、あの走る子なんか！見ていて爽快でしたね。僕は文句なしにひれ伏しました。さらにみんな頑張っていて欲しいと思います。

もうひとつは、盛岡はこの通りスキー場に囲まれているから、この際、本場のオーストリアが落ち目なそうですから、アルペン王国を目指しましょう。そっちに力を入れて、そちらに期待したいと思います。アルペン全種目を頑張りましょう。

今回は素直に「参ったな」というのが正直な意見です。固めて見せてもらって一挙に見て、大変嬉しかったです。

#### ○中村委員長

八木橋委員お願いします。

#### ○八木橋委員

新春の情報提供として、盛り上げるという意味では良かったと思います。ただあのようになら全部出すと総括的になってしまうのはやむを得ない。先ほど話が出た、面白い面白くないか？途中で飽きるとか、それをどういう具合に防ぐかという議論が残ると思います。

最近の視聴者は気まぐれですから、関心があるのはご当地だけで、自分の知っている人が出てきたら、そこは一所懸命見るだろうけど、関係ない所になると飽きてチャンネルを変えてしまう。それを防ぐために何をどうするかという議論は出てくるのではないかと思います。そうするとストーリー性とかが必要になるのではないのでしょうか。例えば県大会で優勝したとか、全国大会で優勝したと言っていますが、逆に準優勝の人と比べてみるとか、県大会で惜しくもあいつに負けたけど、今自分はどう思っているだとか、そうした対立軸を表に出して、ストーリー性を作っていた方が、飽きさせずに見られたのではないかという気がします。

特に今、菅原委員からも出ましたが、ぶっち切りで走った土橋さんという人は若いし、可愛いし、愛嬌がある。それと坂本君、ああいう素材のいい人がいるので、総花的に紹介するのではなく、その人たちの部分を少し長くやってストーリー性を持たせて面白くするとか、そういった工夫をしていけば、他局にチャンネルを換えられる事も少なくなるのではないかな、という気がしました。

情報提供番組としてはそれなりに良かったと思います。シリーズでやられるのであれば、飽きられないように何か工夫があればという感じがしました。

○中村委員長

斎藤雅博委員お願いします。

○斎藤雅博委員

昨年もこの番審で「FLY」を審議したと思いますが、今回も「夢、勇気、感動。」未来に向かって羽ばたくということテーマに、今回は岩手のアスリートに限って昨年1年間活躍した選手を紹介する番組でした。それぞれの若者が大きな目標に向かって明るくチャレンジする姿は非常に爽やかで、お正月番組としては良かったと思います。去年は幅広いジャンルの人が登場して、この審議会では網羅的かなという評価があったと思います。今回はそういった意味ではアスリートに限定していましたが、切り口としても中学生、高校生、プロという切り口で紹介するなどして、前回の反省が生かされていると感じました。

中学生の土橋さんと坂本さんなど、すごい中学生アスリートがいて非常にこれからが楽しみだと感じました。特に2人は逸材だと思います。オリンピックに出場したいと言っていましたので、夢を叶えるために、ぜひそういう方向で育てて欲しいと思いました。先ほど斎藤純委員がおっしゃっていたように、岩手町のホッケーのように地域興しでやっている所の紹介もあって、岩手町としては面目躍如たるものがあったと思います。全体の構成もいろんな挫折も含めて、いろいろな話しもありました。友人や先生のインタビュー、それぞれの人物像や環境などの浮かび上がらせており適切だったと思います。

ひとりの力では優秀な選手は育たないと思いますので、指導者、仲間、インフラを含めた環境があって初めて選手が育成されるのではないかと思います。そうした意味でも岩手スーパーキッズをきちんとやっていくのがいいのではないかと感じています。

番組の中で岩手のスポーツアスリートのトークセッションの場面が出ていましたが、少し私は違和感がありました。ただ、トークセッションのなかで北上翔南高校陸上部の本正園子監督が「企業が求める人材とスポーツマンに求められるものには共通点がある」と言っていたことには全く同感です。スポーツがそうした人間の育成に、特に有効であると感じています。

今回登場した若い人たちはそれぞれ明確な目標をもって日々チャレンジしている。そんな

若者がたくさんいるということで頼もしく思いましたし、明るい気持ちにさせていただきました。

○中村委員長

中原委員お願いします。

○中原委員

僕はこの番組を正月の2日の放送で見ました。景気が悪いなかで、何となく明るい気持ちになりたい時に番組を見せてもらいました。ビデオで改めて見て、なかなか岩手の若者も“いいね”と思った次第です。

一番面白かったのは、春高バレーで不来方高校の選手の1人が、「坊さんになりたい」と言っていたことです。この話題をよく拾ってくれたし、よくぞ言ってくれたと思いました。お坊さんになるにはどこかの仏教大学へ行って、修行をしてということになると思いますが、こお坊さんになるまで、この人を追いかけても面白いのではないかと思います。いろんな意味でこの子を折々に、プレッシャーかけない程度に追っかける、というのも面白いのではないかと思います、興味を持ちました。

アスリートをこうしてまとめて紹介してくれたのは、皆さんおっしゃるように好意的に見れば素晴らしいと私もそう思いました。ただ気になったのは齋藤純委員が言われたように、なぜこの選手なのかとか、この子を取り上げないのかという疑問は、たぶん番組を見たスポーツ関係者の中から当然出てくるわけです。私もそう考えて改めて思い出すと、中学生の男子のフィギュアスケートの選手がいたでしょう。たしか城西中学校の佐藤君だったと思いますが、あの子がどうして出なかったのかと今思い出しました。お父さんもよく知っているけれど、フィギュアスケートは遠征の度に、えらいお金がかかる。そして、海外遠征の時はコーチのお金まで親がもたなくてはいけないと言って悲鳴を上げていました。金がかかるから取り上げるという意味ではなくて、将来有望な男子のフィギュア選手だという定評があります。この間の新聞にも出ていましたけど、中学の全日本大会で8位だったそうです。岩手の冬のウィンタースポーツはフィールドがあるけれども非常に弱くて、目立ったものがここしばらくありません。であればシーズンの最中だけでも、この佐藤選手が正月2日の番組に出てプレッシャーにならない程度に紹介されれば、その後全中大会があった訳ですから、本人の励みになったのではないかと思います。



特にウインタースポーツに関しては、岩手に三ヶ田というオリンピック金メダリストがいます。今、岩手スーパーキッズの指導者として頑張っているのですから、彼自身に意欲をもってもらうためにも、そういう部分を一言でも紹介して、彼をもう少しクローズアップさせてあげると、彼の紹介にもなるし、自信にもなるし、事業展開としてスーパーキッズはどういうものか、子ども達にも分かるような気がします。

やはりこういう番組は、まとめて見ると総花的という意味もありますけれど、果たして何を基準に取り上げているのか、ずっと分からずにいましたが、先ほどお二方からの説明を聞いて、“なるほど”と思いました。その選ぶ基準と放送が冬のシーズンということ、そして指導者という部分をもう少しこの中で感じさせてほしいなと思いました。

岩手国体はそろそろです、東北大会や大きな大会も今後控えていますので、テレビメディアで応援するという意味でも、大いにアピールしてほしいと思いました。若者と年寄りが元気な町は楽しみだとも言う人もいますので、子ども達、若者に対して「めんこいテレビは力を入れて応援しますよ」ということを高々と掲げてもらえれば、スポーツに限らずいろんな意味でアピールできるのではないかと思います。55分でした。

#### ○中村委員長

東海林委員お願いします。

#### ○東海林委員

中学生アスリートの上田中学校の坂本景君は、私たち上中PTAのお母さんたちのアイドルです。礼儀正しいし、応援団の幹事だし、上中の運動会のリレーでも活躍し、応援団なので文化祭の時もいい表情を見せてくれます。

だからと言って中学校でも特別扱いは一切していませんし、今、遠征費のお話しがでしたが、ジュニアオリンピックも実は助成金の対象になっていないので、お家が遠征費も自腹で出さなければいけない状況です。上中の親も地元でもみな応援しています。坂本君は、土橋智花さんと共に本当に有望格だと思います。そんな彼を、是非オリンピックまで追跡取材をしてほしいと思います。

その坂本景君が好きなレミオロメンの曲をBGMにも使っていましたが、あの辺りでこの55分間の番組が盛り上がり、私もあそこまで見て満足してしまい、あの後は初売りに行ってしまいました。(笑) 1時間番組で最後まで見せるというのは難しいですね、前半が勝負

だなあと思いました。お正月の番組で最後まで飽きずに見てもらふことは、他の委員の方もおっしゃっていましたが、なかなか大変だなと思いました。

○中村委員長

久慈委員お願いします。

○久慈委員

私もテレビをそんなに見ないので、まとめて放送していただくのは非常に有難いと思います。

土橋さんですが、新聞やテレビに出ている彼女のイメージと違って、今回見たら普通の中学生だなあと思いました。追加取材の友達と幼稚園の幼なじみとの場面などが、今回の番組の中で重要なポイントになったのかなと思いました。

花巻東高校が大活躍した年はやりやすかったと思います。花巻東で番組の20分位を使ってしまうとそれではよかったです。他の委員の方からも出ていましたが、今回の番組には“なぜこの人は出ないの？”という疑問があります。僕の思いからすれば、なぜ円盤投げで高校新を出した福岡高校の米沢（まいさわ）選手を出さないのか、ということです。だってジュニアオリンピックで大学生に続いての高校生で2位は、県北の我々福岡高校出身者からしてみると凄いことなんですよ。でも、米沢くんが紹介されないこともあるのかなとは思って番組を見ました。それが良いか悪いではなくて、圧倒的存在感の「これ！」というのがある年は出なくてもしょうがないと思ってしまうけれど、小粒ではないけどいろんな人が凄い時には、紹介されたり、されなかったりということになるのかなと思います。

今回、僕が思ったことは“中学生アスリート”という所をもっと強く言っても良かったのではないかということです。中学生アスリートで活躍している上田中学の坂本君と見前中学の土橋さんという圧倒的な2人がいるので、ここを重点的に紹介すれば、皆が納得したのかなあと思いました。それにプラス、スーパーキッズのシステムと連動して結果が出ましたという風に話しを持って行くと、良かったのではないかと思いました。

来年以降もこの番組を続けて行くのだと思いますので、ぜひその年その年に合った作り方をして下さい。私は全然問題ないと思います。花巻東が活躍したような年は暫くないですから、例年このような流れが続く中で、どういう風に特集していくのかという検討を是非やっていただきたいと思っております。

個人的にはうちの子供たちの時代までこの番組が続けばいいんですけど、子ども達が「あれに出たい」とか「特集されてテレビに出たい」という番組にこれから育っていけばいいと思いますので頑張って下さい。

○中村委員長

吉田委員お願いします。

○吉田委員

お正月番組としてこういうものを取り上げたのはすごく良いと率直に思いました。

見ていて、テーマ通り元気を感じました。岩手の若者、羽ばたけというまさにタイトルにぴったりの雰囲気構成されていると思いました。今から40年、50年前の自分自身の中学、高校時代のことを思い出しますと、岩手県内で全国に通用するような競技・選手は本当に数えるくらいしかいませんでした。今の時代にここまで全国レベルと拮抗してきた事はすごい事だと、つくづく感心して見ておりました。おそらく指導方法などさまざまな違いが出てきているのだろうなと思いました。

全体を通して感じたことは、まんべんなく各競技や優秀な方々を取り上げているので、それはそれで良かったと思います。ですが、見終わって「何だか物足りない」「ピリッとした所がなかった」という感じがありました。あそこまで育った人たちの、恵まれない環境の中でも本当に黙々と努力を積み重ねて今日があるという姿だとか、あるいはメンタルな部分とか技術面だとか、裏に隠れている部分をもう少し掘り出して、そこを視聴者に伝えるようなことがあれば、味付けとして良かったのではないのでしょうか。さらりと流したという事になると、印象としてあまり感じるものがなかった、ということになると思います。

印象に残ったのは、上田中学の110メートルハードルの坂本選手の言葉でした。学校生活だけではなくて「人間力」を鍛えて世界一を目指すという、坂本選手のあの言葉にビックリしました。世界一を目標にしているというのです。我々がこういう番組を見ていて、テレビから感じ取るとれるものはメッセージ性です。選手の言葉の中に感動を与える言葉があります。そういう事を取り上げてメッセージ性として出して行く事が、番組のもつ役割として非常に大事ななと感じました。これからはそんな所に少し工夫を入れますと、こういった番組はまだまだ長続きしますし、また視聴者も好んで見るだろうと思いました。

○中村委員長

三浦委員お願いします。

○三浦副委員長

お正月の番組として、美少年、美少女のスーパーアスリートがいるというご紹介で、非常に良かったと思います。爽やかな印象があつてお正月に相応しい番組でしたし、なおかつ上手にまとめられていたという印象をもちました。

少年少女と言いながら、スーパーアスリートという華やかな感じは十分伝わってきました。吉田委員もおっしゃっていましたが、もうひとつ作り方としては華やかさの一方で、努力とか、挫折からの復活、再出発とか、家族愛だとか、チームワークなどという所にスポットを当てると、紹介する人の数が少なくなってくるでしょうけれども、番組としてのメッセージ性が強くなるのではないかという感想をもちました。

藤原委員のお話で私も同感だったのは、文化面のことです。県内でも囲碁や将棋、演劇、また最近では文才のある中学生、附属中学校の三船君がずいぶん有名ですが、いろいろな若い人がいます。そういった文化面での若者の活躍、スーパーキッズを紹介する番組があつてもいいのではないかと思います。

総体としては、大変楽しく今回の番組を見ました。ぜひ毎年続けてもらえれば、来年はどんなものがあるのだろうかと楽しみに見られますので、何としても粘り強く続けていただきたいと思います。

○中村委員長

今日は皆さんコメントがどういうわけか全体に短いです。(笑) たぶん素材には全く文句のつけようがない、そういうことがまずあるのだろうと思います。それぞれの委員の方は、番組全体に対する印象を話されていることが多いと感じました。

ひとつは、去年はスポーツ以外の事を取り上げていて、若干散漫だったというお話もありましたが、今回スポーツ以外は紹介されなかったことが気になりました。岩手で素晴らしいスポーツマンがどんどん育っているという状況を見せていただいたことで、そういった意味では大変良い番組だったと思います。

ただ、去年も同じようなことを申し上げましたが、やはりニュースをずっと並べているという感じですので、まとめるには相当苦勞されたと思います。どうしても散漫になるという

か、いろんなものが入ってきて、全体をじっと見ようとすると、退屈する感じは否めないと思いました。

その中では中学生が頑張っている所が印象的でした。特に私の印象に残っているのは、上田中学校の坂本景君の「人間力」と言ったところです。スポーツマンのなかで、ああいう言葉を言う子はそういないのではないかと思います。実は今、大学でどうやって「人間力」を教えるかが問題になっていまして、そのために1年生の時から教養教育をきちんとしなくてはいけないという事も議論されています。そこが今の子ども達に一番足りない所だろうと思っています。坂本君は「人間力がその競技に出てくるよ」という事を、どなたからか教わっていて、一昨年は2位だったジュニアオリンピックで、今年は断トツで1位になった。そこで彼が「人間力」に対してどのような頑張りをしたか、スポーツに対して頑張るのは当然だと思っていますが、「人間力」をどうやって養ったのかというところがもう少し描けていると、さらに良かったという感じがしました。中学生ですから彼が「人間力」という事を誰かに言われて、なるほどと思うには家庭的な背景があると思います。そういうものもこれからものすごく大事になるだろうと思っています。スポーツで頑張っている、その事自体は大変素晴らしいけれど、さらに人間としても成長している所を見せてもらえれば、非常に良かったなと感じました。あの辺をもう少し深掘して、どうでもいいことは少し整理していかないと番組として面白くなりません、引け付けるものにはならない。プロスポーツのことも紹介していましたが、ある意味であれは付け足しではないかと思います。取り上げるならばもっと徹底的に取り上げて欲しいです。スポーツ番組でチョコチョコと全部出していくようなものでは、結局つまらない。我々も学会発表や講演会でいろんな事を言い出すと「邪魔者がいっぱい入っている。切って、捨てて、整理してしゃべれ！」と怒られます。似た様なことをこの番組の中にも感じましたので、来年はお考えいただきたい。

めんこいテレビの開局20周年記念ということですし、去年、今年と見せていただきましたが、昨年、「FLY」した子たちの誰がどうなったか？例えば雄星君はあれだけ取り上げて、今年は全然取り上げていない。雄星君が今、どうやって頑張っているのか我々は知りたいわけなので、そういう所まで突っ込んでもらえるともう少し整理された面白い番組になってくるし、これから頑張ろうという子ども達にも良い影響を与えるのではないかと感じました。

最後にひとつ気になったのは、去年もカメラのことで文句を言ったような気がしましたが、高橋アナウンサーが一所懸命しゃべっているんですけど、それを斜めから撮ったり横から撮ったりするシーンがあります。あれは不要です。何のためにあんな事をしたのか？我々か

らすると、こっちを見てしゃべってほしいわけです。明後日の方を見てしゃべっている。ああいうのは良くないのではないかと思います。明後日を向くなら明後日を向くなり必然性を、その中にもたせていかないと。そちらに何か競技している人がいて映しているのであれば分かるけれども、ただコメントをしゃべっているのに、あっちを見てしゃべっているのは視聴者に対して非常に失礼じゃないかという印象を受けましたので、その辺をお考えいただければ有難いということでもあります。

○中村委員長

他に何か言いたいことがあれば・・・八木橋委員、どうぞ。

○八木橋委員

坂本君のシーンで部屋の中に箱根駅伝のポスターがありました。陸上をやっている人はみんな箱根駅伝に出てみたいという気持ちを持っています。

駅伝を見ていると岩手の何とか高校出身とか出ますよね。岩手から出て箱根駅伝を走っている、ああいう人たちをちょっと入れた方がいいのではないのでしょうか。山登りなんか岩手県人は得意な筈なので(笑)新しい山の神は岩手から出てもいいんじゃないかと思いますが、なかなか出ないですね。今年は早稲田の完全優勝を東洋大の山の神が阻止して、非常におもしろかった。走っている中に岩手県人が何人か出ているので、その選手達をこの番組でピックアップしてもらえるといいですね。

○中村委員長

はい、中原委員どうぞ。

○中原委員

番組の中でプロを取り上げていました。岩手のプロチームです。グルージャ盛岡とバスケットチームの2つでしたが、それでプロというタイトルの意識で紹介していたとしたら、これはまずいですね。もうひとつ言うと、それならなぜ釜石を取り上げないのか？ 釜石シーウェイブスです。字幕に少し出すだけの紹介だけでもいいのではないかと思います。それから負け負けのフットサルチームもあります。素朴な文句として、「なぜ、出さないのか」と言ってやろうと思うような、そんな視聴者もいるのではないのでしょうか？その辺を少し気をつ

けてやらないといけないのではないかと心配をしました。この部分については、きちんと対応しないと半端だという捕え方をされてしまいます。プロ・社会人という一括りにしてもいいですが、彼らも若者です。せっかくの番組が言われなくてもいい事まで勘ぐられるということは極力避ける努力をしていただけると、みんなが楽しく番組を見られるよ、ということになります。

テレビで紹介されると効果が大きいです。競技自体にもチーム自体にも、そういう思いを抱いて、次の展開をする時には配慮してもらえれば、岩手のスポーツにとっても嬉しいことではないかと改めて思いました。

#### ○中村委員長

委員の皆様、他にはございますか？ないようですので、続いて欠席委員の方からのレポートを事務局からお願いします。

#### ○事務局

役重委員のレポートです。

新年の特番らしい、夢と熱気にあふれた番組でした。いつものように審議会の前夜、あわててVTRを見るフマジメ委員の私としては、タイトルに1時間とあるのを「えっ！長い…」と正直、最初は思いましたが、見始めるとなんということなく引き込まれて1時間見てしまいました。

確か去年の年末か年始の特番で、同じように岩手にゆかりのスポーツ界などで活躍する若い人たちを取り上げた番組を見たと思いますが、その時は30分ではなかったでしょうか。逆に、その時のほうが途中で飽きたんですよね。なぜだったんでしょうかね。菊池雄星くんとか、あまりにもメジャーになりすぎた選手を取り上げたせいもあったのかもしれませんが、おそらくそれだけではなくて、30分という枠の中で、食い足りなさがあったというか、一通り表面をなでただけの観があった気がします。

これに比べ、今回は次から次へアスリートが紹介されるテンポの良さは保ちつつ、要所所で『いいアンバイに』突っ込む、掘り下げるという、タテとヨコのバランスが非常に良かったと感じます。たとえば選手の人となりの面白さ、魅力を突っ込んだハードら一の坂本くんや富士大の中村くん。ふるさと岩手町とのつながりが見る人に近しさを感じさせるホッケ

一の松村くん。そして卒業後の進路という、アスリートも逃れられない道を模索する姿に新鮮さを感じる、不来方バレーの高校生たち。(お坊さんになりたいってスゴイですよ)

そう、そう、ただのスポ・キチでなく、これが聞きたかった、これが観たかっただよ、という『人間』の部分をやみなく、垣間見せてくれたと思います。

少し惜しかったのは、テロップの使い方です。途中から見た人や、最初に見ても忘れてしまう視聴者のために、各選手のコーナーの最初だけでなく、終わりの時にも名前などのテロップがあればいいと思いました。また何か意図があったのかもしれませんが、どの選手も氏名だけのテロップで、所属学校やクラブ名などはナレーションだけの紹介でした。やはり耳からだけでなく目での情報もある程度必要ではなかったでしょうか。さらに、大会のタイトル、顧問の名前などの字が小さくて読みづらいなど。若干の工夫をすればさらに見やすい、引きつけられる番組になったと思います。爽やかな汗と、熱いエネルギーを分けていただき元気が出ました。ありがとうございました。

#### ○中村委員長

それでは、以上で本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

#### ○事務局

中村委員長、ありがとうございました。

今回の審議会の模様は2月19日(土)朝4時30分から「めんこいテレビ番組批評」として放送いたします。

次回は3月8日の午後4時半よりホテルロイヤル盛岡での開催となりますので、よろしくお願ひ致します。

それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます。

#### 7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし



8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

\* 平成23年2月9日（水） 産経新聞 東北版

**番組審議会**  
岩手めんこいテレビ

〈岩手〉岩手めんこいテレビの第199回番組審議会（中村慶久委員長）が8日開かれ、「FLY（はばたけ岩手の若者たちよ）」を審議した。同番組は陸上やサッカーなどスポーツ界で活躍する全国レベルの中・高校生らを取り上げ、めんこいテレビ開局20周年記念として1月2日に1時間枠で放送された。

委員からは「岩手にこんなすごい選手がいたのかと驚いた。文句なしに楽しめた」「正月にふさわしい、さわやかな番組」などと評価する半面、「掘り下げが足りなかった」「文化面にも焦点を当ててほしい」との指摘もあった。

\* 平成23年2月19日（土）午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ番組批評」内で放送

\* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし